

第 13 回アジア太平洋環境会議（エコアジア 2005）の結果概要

環境省地球環境局総務課

1. 日 程 平成 17 年 6 月 4 日（土） 5 日（日）
2. 場 所 長良川国際会議場
3. 出席者
 - ・ アジア太平洋地域 4 か国の環境担当大臣を含む各国代表者（19 か国）
 - ・ 国連環境計画（UNEP）等国际機関の代表者（12 機関）
 - ・ なお、参加者は、「COOL BIZ」（クールビズ）の服装で出席。
4. 主要議題
 - ・ 地域や各国における環境保全への取組み
 - ・ アジア太平洋環境開発フォーラム（APFED）の活動報告と今後の取組
 - ・ アジア太平洋環境イノベーション戦略プロジェクト（APEIS）の研究
成果の報告と今後の取組み
 - ・ 3R イニシアティブのフォローアップ
5. 成 果
 - ・ 結果は議長サマリーにとりまとめられた。主要なポイントは以下のとおり。
 - 1) 2001 年のエコアジアで開始され活動を続けてきた APFED が取り
まとめた報告とその提言が強い支持を受けたこと。
 - 2) APFED 提言を実現するために、APFED の提言に含まれるアクシ
ョンプラットフォームを実施する必要性が強調されたこと。
 - 3) APFED の第 2 フェーズ（APFEDII）が本地域における「ナレッ
ジマネジメント」と「革新の促進」のための中核となることが強く
希望されたこと。
 - 4) APEIS の研究成果が歓迎され、本地域の研究機関の連携が APEIS
により促進されていること、国際的な諸活動に貢献していることな
どが評価されたこと。
 - 5) APEIS の第 2 フェーズを進めることが歓迎されるとともに、その
成果を活かすため、政策決定者と緊密な連携をとり続けることが強く
希望されたこと。
 - 6) 3R イニシアティブに関する日本の主導的役割が歓迎されるとと
もに、アジア地域における循環型社会の実現のためのビジョンの発
展や能力構築などの日本の提案が支持されたこと。

アジア太平洋環境開発フォーラム（APFED）最終報告文書 について

I. 最終報告文書は以下の3つで構成

- 1) 要約 - 以下の報告書とアクションプラットフォームの要約
- 2) 報告書 - APFED による 100 を超す提言を詳細にとりまとめた文書(200 頁弱)
- 3) アクションプラットフォーム - 2) の提言を実施に移すメカニズムの提案文書

II. 報告書に盛り込まれた提言

以下のカテゴリ毎に提言をまとめている

1. 持続可能な開発に向けた統合的アプローチのための提言

- 1) 環境民主主義のための組織制度の強化
- 2) 連携強化のためのシステム構築
- 3) 持続可能な開発のための能力開発イニシアティブ
- 4) 持続可能な開発のための革新的な資金メカニズム
- 5) 持続可能な開発のための国際貿易
- 6) 持続可能な開発のための革新技術

2. ステークホルダーの連携強化のための提言

- 1) 市民社会組織（CSO）の権利拡大
- 2) 民間部門における環境イニシアティブ
- 3) 公共部門によるステークホルダー間の連携の促進

3. 主要分野別提言

- 1) 淡水資源
- 2) 海洋・沿岸資源
- 3) エネルギーと清浄な大気
- 4) 土地利用管理 - 都市化、農村開発及び森林保全
- 5) 化学物質問題

III. APFED アクションプラットフォーム

以下の3つのメカニズムを提案している

1. マルチステークホルダーの相互対話メカニズム
2. 持続可能な開発に関する知識イニシアティブ
3. 持続可能な開発のための革新的取組ショーケース